

平成31年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童生徒（小学校第6学年、中学校第3学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

■実施日時：平成31年4月18日（木）

■参加者数：小学校7校 児童数395名 中学校4校 生徒数422名
合計 817名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果

問題 学年	国語	算数・数学	英語
小6年	全国と同等、県を上回る	全国・県とほぼ同等	
中3年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

(2) 各教科の状況について

○＝平均正答率が高い問題 ●＝平均正答率が低い問題

【小学校】

	出題の趣旨
国語	○目的に応じ、本や文章全体を概観して効果的に読む。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
算数	○台形について理解している。 ○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができる。 ●示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。 ●示された除法の式の意味を理解している

【中学校】

	出題の趣旨
国語	○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考え方を持つ。 ○書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。 ●文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。
数学	○平行移動の意味を理解している。 ○三角形の合同条件を理解している。 ●グラフ上の点Pのy座標とQのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
英語	○語と語の連結による音変化を捉えて、情報を正確に聞き取ることができる。 ○教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる。 ●聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。 ●文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

① 体の状況

- ・教科に関する調査の平均正答率は、小6国語は県平均に比べて+5%上回っていました。小6算数、中3国語数学、英語とも、全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内(-2.0%から+3.2%)にあり、ほぼ同等です。
- ・小学校、中学校とも全教科において無回答率の割合は全国に比べて低い。最後まで解答しようとする態度が伺えます。
- ・問題形式では、小学校では国語、数学共に「選択式」・「短答式」・「記述式」のほぼ全ての分野で国、県平均正答率を上回っています。両教科共に「記述式」の正答率が高くなっています。中学校は3教科とも「選択式」・「短答式」・「記述式」の全分野が国、県平均正答率と同等です。

②各教科の状況

○小学校国語

- ・話し手の意図を捉えながら自分の考えをまとめたり、文章を効果的に読むことについて高い正答率でした。
- ・漢字の書き取りで同音異語の選択に課題が見られます。

○小学校算数

- ・台形への理解、棒グラフの理解など正答率が高いものの、除法の式の理解に課題があり、一層の基礎的・基本的な知識理解の定着に課題が見られます。
- ・図形の面積の求め方や数値の増減の判断など数学的な考え方について課題が見られます。

○中学校国語

- ・文章について自分の考えを持つことの正答率が高いものの、伝えたいことを分かりやすく伝えることに課題が見られます。

○中学校数学

- ・平行移動の意味を理解することは正答率が高いものの、反比例の関係を式で表すことの正答率は低く課題が見られます。

○中学校英語

- ・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることの正答率が高いものの、一般動詞の1人称や3人称の肯定文、否定文を正確に書くことや英語で説明文を作るものの正答率が低く、課題が見られます。

2 生活習慣や学習環境等に関する結果について（児童・生徒質問紙による意識調査）

望ましい状況○ 課題と見られる状況●

【小学校】

- 朝食を毎日食べている。
- 先生は、よいところを認めてくれていると思う
- 先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。
- 学校の決まりを守っている。
- 人が困っているときは進んで助けている。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- 日本や地域のことについて外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。
- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- 学級では学級生活よりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。
- 1日当たり3時間以上勉強する（月曜日から金曜日）。
- 1日当たりの2時間以上読書する（月曜日から金曜日）。
- 週当たり4回以上図書室、図書館に行く。
- 新聞をほぼ毎日読んでいる。

【中学校】

- 朝食を毎日食べている。
- 自分には、よいところがあると思う。
- 先生は、よいところを認めてくれていると思う。
- 先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 学校の規則を守っている。
- 人が困っているときは進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- 日本や地域のことについて外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- 授業では自分から取り組んだり、考えを深めたり、要点をとらえる活動をしている。
- 家で自分で計画を立てて勉強している。
- 1日当たり3時間以上勉強する（月曜日から金曜日）。
- 1日当たりの2時間以上読書する（月曜日から金曜日）。
- 週当たり4回以上図書室、図書館に行く。
- 新聞を読んでいる。
- 1, 2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICTを毎日使用した。

■主な傾向・課題

- ・児童質問紙・生徒質問紙の9割の項目で、肯定的な回答をしており、そのうち全国平均を上回る項目数は、児童質問紙ではおよそ8割、生徒質問紙では9割に及びます。このことから、本市の児童・生徒の生活習慣や学習環境等は、良好な傾向にあると言えます。
- ・小学校、中学校とも、高い規範意識や自己有用感を強く持って生活している様子がうかがえます。
- ・小学校、中学校とも学級内で言語活動が活発に行われ、多様性を認めながら真理を探究する意欲が育っています。
- ・小学校、中学校とも、郷土愛が育ち富士山学習の成果が表れています。
- ・小学校、中学校とも、教科等横断的な学習への態度が育っています。
- ・小学校、中学校とも、主体的、対話的で深い学びに向けた話し合う力が育っています。

3 今後の取組について（学力の向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します。）

【小学校】

- 国語の授業において、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるように指導します。
- 算数科の授業において、数学的活動（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動②算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動③数学的に表現し伝え合う活動）を積極的に行います。
- 朝学習の時間や家庭学習などを有効に活用して、繰り返し学習を行い、計算など基礎的・基本的な技能を習得します。
- e-ライブラリーや学習クラブを積極的に活用するとともに、県教委「家庭学習のすすめー学びの甲斐善八か条ー」を有効活用していきます。
- 富士山学習において自分の住む地域に関する興味・関心を高め、地域行事や地域貢献活動への参加意欲を高揚させます。キャリアパスポートの導入を円滑に進めます。

【中学校】

- 国語科の授業において、主語・述語や修飾・被修飾などの語の照応、語順、文末表現、助詞の使い方、文や段落のつながりなどの文章の組み立てなどに着目して推敲する学習活動を積極的に取り入れます。また、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができる力を育みます。

- 数学科の授業において、**数学的活動**（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動②算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動③数学的に表現し伝え合う活動）を積極的に行います。
- 英語科の授業において多くの文章に接する機会を作り、物語などを読んで話のあらすじや、最も大切な部分を読み取ることができる力を育成し、さらには語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる力を育成します。
- e-ライブラリーや学習クラブを積極的に活用するとともに、県教委「家庭学習のすすめー学びの甲斐善八か条ー」を有効活用していきます。
- 職業体験、職業ワークショップ事業などのデータバンク化により市内統一のキャリア教育を保証します。キャリアパスポートの導入を円滑に進めます。

自己肯定感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたちが一層がんばっていけるよう、家庭、学校、地域で連携を深めていきましょう。

問い合わせ先 富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所 TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766
